

編集後記

いよいよ「令和」の時代の幕開けです。新元号「令和」は、万葉集の梅の花32首の序文「時、初春の令月にして、氣淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薰す。」が由来となっているそうです。「人々が美しく心寄せ合う中で文化は花咲く」時代、期待したいと思います。

「誌上ギャラリー」には池田敏郎先生より大河ドラマ「西郷どん」でも有名になった加治木町の龍門司坂の写真をいただきました。石畳のかたわらに紫華鬘（ムラサキケマン）の花がけなげに咲いています。一度訪ねてみたくなります。

「論説と話題」には長友医継先生、帆北修一先生、本坊俊和主任、松藤俊一さんによる日本医師会医療情報システム協議会について報告していただきました。オンライン診療では、対面診療に加えて情報通信機器で得られる情報を有効に活用することによって治療効果を上げることや、医師不足地域での医療の質の向上など補完的位置づけとして活用が期待されます。医療の安全性、有効性を守るために「オンライン診療の適切な実施に関する指針」（厚生労働省）は順守されなければなりません。また、これからはAI（Artificial Intelligence：人工知能）+ IoT（Internet of Things：すべての「もの」がインターネットにつながる）が社会を大きく変える時代です。医療の分野でも安全に活用されることが望まれます。

「くすり一口メモ」には新上香奈子先生より新しいがん治療薬として注目されている免疫チェックポイント阻害薬について詳しく解説していただきました。適応の追加申請を行っている薬剤も多いため、今後はさらに治療選択肢が増えるようです。

「学術」には亀之原佑介先生より「Pembrolizumab投与中に発症した劇症型1型糖尿病の1例」をご寄稿いただきました。今後さらに免疫チェックポイント阻害薬を用いた治療が普及し、投与される患者が増えてくることが想定されます。がん治療に携わる専門医師のみならず、かかりつけ医

の立場でも自己免疫関連有害事象についての知識が求められるようです。東邦大学の弘世貴久先生から「2型糖尿病のいかなるステージでSGLT2阻害薬は有効か？」をご寄稿いただきました。心血管系イベントの既往があるいわゆる2次予防だけではなく、1次予防の患者、さらには糖尿病発症早期の患者など全ての2型糖尿病患者のステージにおいて望ましい治療効果が期待できそうです。

「切手が語る医学」には、今回も古庄弘典先生からソロモン諸島・マレーシアの切手を紹介していただきました。いつもありがとうございます。

「リレー随筆」は堀切陽祐先生です。まるで映画評論家のコメントのよう、映画の世界に引き込まれていきます。まだ見ていない魅力的な映画がたくさんあります。映画の世界・・・いいですね。映画評論家 淀川長治さんの「それではまた次回をお楽しみに、サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ」が懐かしいです。

「区・支部だより」には各支部長交代のご挨拶をいただきました。1年間ありがとうございました。そしてよろしくお願ひ致します。

「各種報告」では平成30年度学校保健講習会について永井慎昌先生、山元公恵先生、年永隆一先生、長友医継先生に詳細に報告していただきました。令和の時代がこどもたちにとっていい時代になることを切に願います。

鹿児島市医報は本号で687号となります。記念すべき令和元年の第1号です。そう考えると感慨深いものがあります。新しい時代「令和」はどんな時代になっていくのでしょうか。英訳するとbeautiful harmonyとなるそうですが、未来ある平和な美しい時代になってほしいものです。本誌も新しい歴史を作っていくことになります。これからも末永くよろしくお願ひ致します。

（編集委員 今村 直人）